

速報

琉球新報

THE RYUKYU SHIMPO

2013年(平成25年)

1月25日(金)

発行所 琉球新報社

郵便番号 〒900-8525

那覇市天久905番地

©琉球新報社2013年

沖尚 センバツ決定

5年ぶり、春夏10度目



センバツ出場に向け、氣勢を上げる沖尚高ナイン＝八重瀬町の尚学ボールパーク (資料写真)

学校沿革

◆沖繩尚学高校(那覇市国場747) 1956年に設立された学校法人嘉数学園沖繩高等学校が前身。83年に沖繩尚学高校が新しい学校としてスタートした。91年に嘉数学園から分離独立し、学校法人尚学学園がスタート。現在、普通科に1138人が在籍。

野球部は56年に創設。99年、2008年の春の甲子園で優勝。現在の部員は1年生21人、2年生24人の計45人。比嘉公也監督は99年の優勝メンバーで、2006年に就任。

沖尚は昨年の県秋季大会で準優勝し、第131回九州大会(12年10月27日)11月2日、長崎県)に出場。比嘉健一朗と宇良淳の両エースが安定したピッチングでゲームをつくり、野手も堅い守りで援護、勝利を重ねた。決勝では最終回に5点を挙げると、打線が粘り強さをみせ、05年春季以来の優勝を飾った。

選抜大会の組み合わせ抽選会は3月15日に毎日新聞大阪本社で行われる。

高校野球

県勢出場3年ぶり

第85回選抜高校野球大会(3月22日から13日間・甲子園)の出場校選考委員会が25日に毎日新聞大阪本社で開かれ、沖繩尚学など36校の出場が決定した。沖繩の春の選抜大会出場は、福岡ソフトバンク入りを決めた東浜巨投手を擁して2度目の優勝を果たした2008年以来。甲子園出場は沖繩高時代を含めて通算10度目(夏5回、春5回)となる。県勢の選抜大会出場は興南と嘉手納が出場し、興南が優勝した10年以來3年ぶり。

センバツまでの歩み

県秋季大会

▽2回戦 沖尚 6-0 普天間

▽3回戦 沖尚 3-1 八重山

▽準々決勝 沖尚 7-3 美里

▽準決勝 沖尚 3-2 興南

▽決勝 宜野座 5-3 沖尚

九州大会
▽2回戦

沖尚

00210000100

00000001110

24

日章学園(宮崎)

一回に平良勇貴の三塁打などで2点を先制。三回と七回にも打線がつながり、1点ずつを追加した。先発の比嘉健一朗は終盤に2点を失ったが、要所を締めて完投した。

沖尚

0000100001001

0000000200001

23

熊本工 (延長十回)

四回に振り逃げと連続四球、暴投で1点を先制した。七回に2点を奪われ逆転を許したが、八回に具志堅秀樹の二塁打と柴引佑真の適時打で同点、延長十回に柴引が再び適時打を放ち勝ち越した。

沖尚

410001111

000000110

18

創成館(長崎) (七回コールド)

初回に諸見里匠の左前打、久保裕人の中前打などで先制。平良勇貴の二塁打も加わり、4点を奪った。二回には知念佑哉の三塁打などで1点を追加。五回、六回、七回にも1点ずつを加え、コールド勝ちした。

沖尚

00000000005

00000000005

05

濟々賢(熊本)

先発の宇良淳が打たせて取る投球で相手打線を抑え、七回に比嘉健一朗に継投して零封した。打線は最終回に四死球や平良勇貴の三塁打、具志堅秀樹の安打などで5点を挙げ、勝負を決めた。

挑むウチナ一魂



沖縄尚学 濟々賢 優勝が決まりハイタッチで喜ぶ沖尚メンバー



沖縄尚学—熊本工 先発し6回2/3を2失点と好投した沖尚の宇良淳



沖縄尚学—日章学園 2失点完投でチームの勝利に貢献した比嘉健一朗



沖縄尚学—熊本工 10回沖尚2死三塁、勝ち越しの本塁に生還し雄たけびを上げる諸見里匠(左)



沖縄尚学—濟々賢 9回沖尚1死三塁、投ゴロの間にホームに生還する平良勇貴



沖縄尚学—濟々賢 優勝旗を手にダイヤモンドを一周する沖尚メンバー